

読書感想文

「私が欲しかったもの」を読んで

筑紫少女苑

この本は元トップマラソンランナー原裕美子さんが誰から必要とされない苦しみから逃れようと「居場所」を求め続けた結果、窃盗症・摂食障害という二つの病を患い、万引きの衝動を制御することが出来ずに七度の逮捕へと至ってしまう壮絶な人生物語です。

この本を読む中で、私の拙い過去と重なって何度もつらくなりました。自分の容姿に囚われて「太った私に価値はない。」と食事を過度に制限したり、空腹が限界になると大量の菓子パンを万引きしてしまう。この連鎖が四年に渡って続いた過去が私にはあるからです。私と同じ様な悩みや痛みを抱えた方の生きづらさを払拭してくれる「導きの本」だと感じました。万引きが「病氣」だと聞くと疑問を抱く方もいると思います。私自身「病氣」としての万引き」について理解し、自分の深刻さに気が付いたのは、この本を読んだからです。その一部分を紹介します。「例えばルパン三世みたい宝石などの高価な品を盗む行為は発覚により被る不利益とえられる利益が釣り合うため、窃盗を繰り返しても病氣だとはいえないでしょう。しかし何百円程度の安価な商品を、捕まるリスクを負ってまで、もしくは本人が止めたいと悩んでいるにも関わらず繰り返すのは明らかに病氣と判断するべきです。」私は特に食への衝動を抑えることが難しく、食料品を大量に盗んでいました。私の行動が病的

であると受け入れるのには、時間が必要でしたが、「病氣であるのなら、治せるんだ。」と少しの希望を感じたのを覚えています。

自身の問題点である「万引きへの駆動性」を抑えるために、この本を通して私が少年院生活で実践していることが二点あります。一つ目は「おまじない」です。窃盗を再度してしまいそうな場面を想像して、自分で決めた言葉を言いながら、あるいは思いながら、自分で決めた動作を行います。「万引きはやれない、大丈夫。」という言葉进行いながら、胸に手をあてる私の場合、このおまじないを反復することで万引きをしたいた気持ちが生まれても、制御刺激となり欲求が収まります。二つ目は、「想像」です。何度も繰り返す問題行動を起こしてしまつた日を時系列から詳細に、思い出します。場所や移動経路、見たものや聞いたもの、当時の雰囲気、誰と何を話したの様に盗んだのか、これも毎日「内省ノート」に書き出します。思考し、紙に書き出すことで自身の行動を客観視することができるようになります。どちらの方法も地道に繰り返すことで、定着するもので、窃盗症の治療方法として楽な治療方法はありませんでした。ですが、少年院に身を置いた以上、どうしても生き直したい、という気持ち根底に芽生えたことが私を絶望から、わずかな希望へと導いてくれました。幾度も「万引きはしたくない、もうしない。」と強く誓ったのにも関わらず、同じ事を繰り返してしまう私は、意志薄弱でこのまま生きていてもどうしようもないんだ、と四年間跳ね続けましたが、生き直したい、という気持ちさえあれば私を含めた誰もが、輝けるのだとこの本を

通して信じられる様になりました。

度重なる窃盗行為で、家族を傷つけ失望させてしまった経験から、家族をはじめ周囲の人の目を恐れてしまう様になり弱い気持ちを吐き出すことが難しくなっていました。「窃盗を犯してしまいそうで外出するのが怖いんだ。」と弱さを隠さずに生きることができていたら、私の生きづらさは軽減していたと思います。周囲に心を開き、偽らずに接することで私の周囲にはありのままを受け入れてくれて「貴方が大切だ。」と伝えてくれる先生、母親がいます。原裕美子さん、そして私が欲しかったものは「愛情と居場所」です。過ちを犯し遠回りをしすぎた私に、愛情と居場所そして気づきを与えてくれた母親、先生方、この本との出会いは私にとって大きな財産となり、更生の一助となりました。自身と向き合うことから逃げず、次は私が周囲の人に「愛情と居場所」を与えられる大人になります。人は皆、磨けば光るダイヤモンドの原石だと信じて。

（審査員 上村 佳子）

本来、病と犯罪を結びつけたくはないと思っていますが、心の病から窃盗を繰り返す常習化してしまう犯罪があります。背景には現実逃避や埋められない心の闇や過度なストレスともいわれています。

それでも、同じ病の著者に共感しながらも、感想文中にあるように生き直したいという強い気持ちがあれば、日々の地道な努力で叶うはずです。おまじない一つでも、その成功体験を積み重ねることが自信につながります。Y・Tさんにとっての「居場所」が見つかりますよう祈っています。